

平成30年度～令和元年度 地域防災課題解決プロジェクトの取組報告書抜粋
 伊賀市三田地区 アンケート／キックオフ講演会
 松阪市港地区 手順／D I G／成果物（港地区の防災計画）

○6月下旬～7月 地震防災に関するアンケート（全戸調査）

地域全戸（734世帯）へ配布。最終的な回収率は41%。地区によって回収率の差がかなり大きく、防災意識の高い地区と低い地区が混在している。

アンケート結果については、比較的防災意識が高い地域だという市の認識とは違い、地域の防災意識は低く、特に「備え」や「備蓄」に対して顕著だった。以前に浸水被害にあっている地区でも、被災した住民のみの意識が高いだけだという感じ。

さらに、年2回も避難訓練（安否確認訓練）を実施しているにしては、避難に対する理解度は低く、住民主体の避難所運営訓練を行うには、今のレベルでは困難であると感じた。ただし、地域の防災勉強会等への参加意欲は高いという結果であったため、昨年同様まずは地域全体の防災意識の向上を行い、下地を作りつつ、地域が一緒になって防災課題を共有し、少しずつ解決していこうという方向に向くように取組を行う。

○7月15日 三田地区防災訓練（キックオフ）

三田地区防災訓練（水害・土砂災害編）	
日時 7月15日（月）【梅の日】	
第1部（初動避難） 08:30～ 場所 各地区集合場所	08:30～ 風水害により伊賀市から避難指示発令～各地区内で安否確認～各地区集合場所から避難開始（地区単位で避難）～市民センターに避難 09:45～ 市民センターに集合し避難者の集約（災害避難連絡網・安否確認表に記載）
第2部（防災講演会） 10:00～ 場所 三田地区市民センター2階ホール	10:00～ (1) 防災講演会 講師 三重大学 川口 淳 准教授 ① 共助の重要性 ② 三田地域の防災課題へのヒント (2) クロスロードゲーム（災害対応ゲーム）
第3部（炊き出し訓練） 12:00～ 1階会議室で炊き出し訓練によるカレーライスの試食	
主催 ・三田地区住民自治協議会（生活環境部会）・各地区自主防災会 共催 ・伊賀市・三田公民館・伊賀市北部分三田部 ・三田更生保護女性の会・三田地区住民自治協議会（農業産業部会） ・midimic みみ助災・防災センター	



プロジェクトのキックオフとして、川口先生による講演会と、クロスロードゲームを実施。三田地区の住民約80名が参加。講演会の前には、住民の避難訓練が実施された。また、炊き出し訓練も実施。

地区毎にテーブル分けしたクロスロードゲームは、とても盛り上がった。この盛り上がりをも10月の訓練に繋げていければと思った。

三田地区防災通信

三田地区住民自治協議会 生活環境部会

2019年度の防災活動おさらい (三田地区防災訓練)

2019年

1月27日(日)三田地区防災訓練(地震)

三重大学の川口准教授による講演

『災害に強い地域づくり』

『災害に強い地域づくり』と題して、三田地区市民センターにてご講演いただきました。災害時に強い地域にするためのヒントがたくさん詰まっていた。2019年度の三田地区防災取組への意識向上が図れば大成功。結果は今後のお楽しみです!



平成30年度
三田地区防災講演会

災害に強い地域づくり
～生き残り、生きのび、次につなげるために～

三田大学大学院工学研究科
川口 淳 准教授

お楽しみ! 伊賀防災アドバイザー
「防災の心」がテーマとして講演内容で
盛り込み!!

□□ 平成31年
日 1月27日(日)10:00~
□□ 三田地区市民センター

※東海地震発生後、三田地区に被害が及ぶ可能性があり、緊急避難訓練を実施し、防災意識の向上を図ります。三田地区市民センターにて実施いたします。ご参加ください。

主催:三田地区住民自治協議会、伊賀市

7月15日(日)三田地区防災訓練(風水害)

三重大学の川口准教授による

『クロスロードゲーム』

ご講演と、『クロスロードゲーム』を通して災害の場面を考えました。地区ごとに意見を出し合い、大盛り上がりでした!



三田地区防災訓練 (水害・土砂災害)

日 7月15日(日)【雨の日】

第1部(初動避難) 08:30~
第2部(防災講演会) 10:00~
第3部(飲み出し訓練) 12:00~

会場: 各地区集合場所
三田地区市民センター
2教ホール

08:30~ 三田地区市民センターで避難訓練(初動避難)を実施し、避難経路の確認を行います。三田地区市民センターにて実施いたします。

10:00~ 三田地区市民センターにて防災講演会を実施いたします。講演内容は、災害時の対応や、防災意識の向上についてです。

12:00~ 各地区集合場所にて飲み出し訓練を実施いたします。

主催:三田地区住民自治協議会(生活環境部会)・伊賀市防災対策課
共催:伊賀市防災対策課・伊賀市消防本部
協賛:三田地区住民自治協議会(生活環境部会)・伊賀市防災対策課・伊賀市消防本部
協賛:三田地区住民自治協議会(生活環境部会)・伊賀市防災対策課・伊賀市消防本部

生活環境部会では 地域防災検討会

本年度は、伊賀市総合防災訓練とあわせて行った三田地区防災訓練の企画など、防災活動中心の検討会を計8回開催しました。

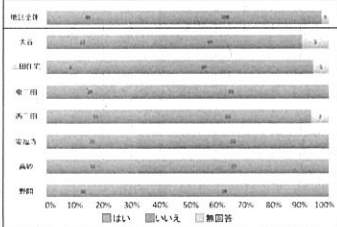
2019年度三田地区地震防災に関するアンケート結果について(要点版)

現時点の防災意識を把握し、取組の指標とするため、アンケートを実施しました。みなさまご協力ありがとうございました。今後とも三田地区の防災活動を一緒に頑張っていきましょう!

アンケート結果のポイント

- 自宅の備えをもっとしなきゃ...
- 食料・水など備蓄が少なくて心配...
- 防災訓練等への参加意欲は高いです!

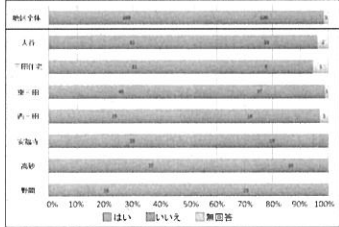
① 大型家具(食器棚・本棚・タンス等)の転倒防止対策をとっていますか?



アンケート結果へのコメント
・分かってはいるが、なかなかできていない
・一人暮らしや老人家庭が多いのでどうしよう
・もっと啓蒙活動が必要
・いつ地震が起こるか分からないので早く転倒防止しよう!

水木先生からの一言
阪神淡路大震災では、家具の転倒による下敷きなどで窒息死や圧死された方が多くいました。大地震発生時の自助として身を守るために一番重要な対策です。地域の皆さんで早く対応しましょう!

② 棚やタンスの上から重いものが落ちてこないようになっていますか?



アンケート結果へのコメント
・高砂が多い!!
・ちょっと意識すればできそうな対策
・100%にできる可能性がありそう
・子供が多いため、棚の上に物を載せてしまっている

水木先生からの一言
100%「はい」にすくできます! 帰宅したらすぐにやりましょう。地震発生時、棚の上など高い所に置いたものはケガの元や避難の妨げになります。ご家族のためにも「すく」対応しましょう!

10月27日(日)三田地区防災訓練(伊賀市と共同開催訓練だよ)

令和元年 三田地区防災訓練開催のお知らせ

10月27日(日) 三田地区防災訓練

【訓練時間】午前9時~午後3時(雨天決行) 開催場所: 三田地区市民センター

10:00~ 避難所体験(避難所体験) 避難所体験
10:30~ 避難所体験(避難所体験) 避難所体験
11:00~ 避難所体験(避難所体験) 避難所体験
11:30~ 避難所体験(避難所体験) 避難所体験
12:00~ 避難所体験(避難所体験) 避難所体験
12:30~ 避難所体験(避難所体験) 避難所体験
13:00~ 避難所体験(避難所体験) 避難所体験
13:30~ 避難所体験(避難所体験) 避難所体験
14:00~ 避難所体験(避難所体験) 避難所体験
14:30~ 避難所体験(避難所体験) 避難所体験
15:00~ 避難所体験(避難所体験) 避難所体験

三重大学・水木先生のちょっと防災講話

避難所って狭いよね体験

熱い説明! 避難所のトイレ体験

ダンボールのベッドもイネ

訓練をふりかえって

○ふりかえって:参加者が少なかった、体育館が狭いと感じた、体験型訓練で知識が深まった、継続して訓練するには工夫が必要、地区ごとの訓練も必要、若い世代の参加が大切 etc 多くの意見が出されました。

2020年

来年の目標を決めよう!

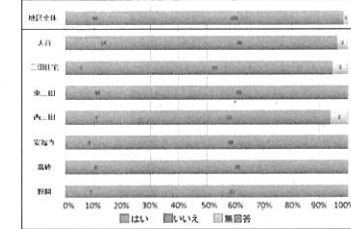
○目標を決めよう!:今後三田地区がどんな地域になっていきたいかをイメージした防災目標について話し合いを行いました。災害時に犠牲を少なくするために安否確認がちゃんとできるようにしたい、地域が広いので、災害時にはそれぞれの区で被害状況は異なるから、家庭ごとやひとりひとりがちゃんと防災について考えられる地域になりたい etc 多くの目標が出されました。それらの意見を踏まえて、来年度に実施したい訓練など意見を出し合いました。

今後の三田地区の防災目標について

- ・みんなで参加!ひとりひとりが防災に向き合える地域へ
- ・もらさない安否確認で災害時もみんなが安全安心な地域へ

これからも防災意識を高めていきましょう!!

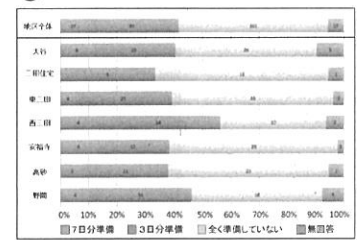
③ すぐに避難できるように寝室に履物を用意していますか?



アンケート結果へのコメント
・私も用意していない
・必要だと意識しているが、忘れてしまう
・携行スリッパ的な物なら用意できそう
・簡単なことだからすぐ始めよう!うちもしてるよ!

水木先生からの一言
想像してください。夜、暗い中、地震で飛び散った窓ガラスや棚のガラス戸などの上を履物もなしに素足で避難できるでしょうか…。用意のある/なしで避難できるかどうか大きく関わってくる重要なことですよ!皆さんで100%「はい」を達成しましょう。

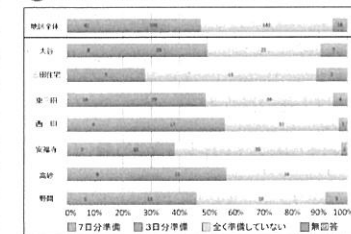
④ 食料品をどの程度準備していますか?



アンケート結果へのコメント
・最近の災害が不安で、備蓄を多めに用意している
・三日分用意しているが、19号台風を考えると全くなりていないのでは
・地区には米と野菜ありそだが、調理はどうしよう
・毎年9月1日に非常食を買って、古くなる前に食べる習慣にすればよい

水木先生からの一言
一次持ち出し品としてリュックなどに3日分を、二次持ち出し品として安心のための備蓄をしておきましょう。「全く準備していない」方が多くて驚きました。普段食べているレトルト食品や缶詰が非常食になることもあります。それでも何も無い...という方も、とりあえず3日分からも始めてください。

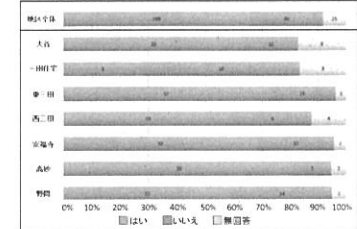
⑤ 飲料水をどの程度準備していますか?



アンケート結果へのコメント
・『全く準備していない』が半数以上で驚いた
・実際に災害にあわないと、その気にならない
・洗い物にも水は必要です。たくさん用意しましょう!
・水は、命の水

水木先生からの一言
非常時の食料も水も用意しておくのはもちろん自分の為でもあります。ときにはそれが他の誰かの命を救うことでもあります。「全く準備していない」割合を減らしていきましょう。それにはまずは自分のための「自分用」を用意してください。

⑥ 今後、地域で実施する防災訓練や勉強会などに参加しますか?



アンケート結果へのコメント
・家族の中では自分しか参加していない
・近頃は災害が多いため、訓練に参加したいと思う
・いつ災害が起こるか分からないから、参加しよう!
・災害への準備につなげてほしい

水木先生からの一言
災害への対策として「自助」は大切ですが、「共助」も重要です。地域の防災への取組の現状を知るためにも訓練や勉強会への参加は良い機会になると思いませんか?地域の皆さんで防災について考える機会もあります。関心を高めるためにもぜひ参加しましょう。

取り組み内容

（代表者会議）

まちづくり協議会役員や自治会長等 8 名で構成し、全体計画や方針、スケジュールを決めました。

（全体会議）

代表者会議メンバーに加え、自治会内の組（班）長、小学校長、社協、消防団、市の関係する部局等 42 名で構成し、代表者会議での決定事項の報告やワークショップ開催に向けた住民との連絡調整をおこないました。

（災害図上訓練：D I G）

津波避難に対する計画を進める手法として、災害図上訓練（D I G）を実施しました。

実施主体は、高須町、西黒部町においては組（班）の単位、松名瀬町は自治会の単位でおこないました。

松名瀬町については、自治会単位で実施しましたが、自治会役員など地区内の代表者が主な参加者となり、参加率が低く地区内の理解が得られにくかったため、次年度（令和元年度）に再度D I Gの機会を設け、組単位で実施し、D I Gに加え津波避難計画の説明を実施しました。



D I Gの内容は、南海トラフ地震（理論最大）の想定のパターンで、自宅で発災し、どこを通過してどこへ逃げるかを図上でシミュレーションし、避難経路の洗い出しをおこないました。

また、自助努力で解決をしなければならない事も合わせて洗い出しをおこない、できること、できない事を整理し、平時の備えのヒントになりました。

（津波避難訓練）

地区防災計画に記載された、主たる避難経路の実効性を確認するために訓練を実施しました。

また、小学生と合同で訓練をすることで、地域内の「顔の見える関係」がより深まり、防災以外の面でも有効に働いています。

さらに、避難行動要支援者名簿掲載者の内、個人情報開示に同意を得られた名簿（以下：同意済み名簿）をもとに、自治会単位で日頃の声掛けを始め、避難訓練前には同意済み名簿を元に訓練参加の呼びかけや、訓練時には安否確認をおこないました。

成果の活用と課題

地区防災計画記載の主たる避難経路は、訓練毎に見直し検討を繰り返し行い、地区防災計画のさらなる周知とブラッシュアップをおこなっていきます。

また、避難行動要支援者に対する取り組みとして、同意済み名簿を元に防災以外の様々な行事（イベント）への参加を促し「地域で顔の見える関係作り」につなげ、さらには個別の支援計画の作成につなげていきたい。

4. 各地区の具体的取り組み内容

西黒部地区（平成30年度～令和元年度）

松阪市の北東部に位置し、一級河川の櫛田川下流の両岸に位置し、北は伊勢湾に面し、南は国道23号線が通り、西には2級河川の金剛川が流れています。

西黒部町、松名瀬町、高須町の3町からなる地区で、人口は2,108人、847世帯で高齢化率が38.1%です。（令和2年1月現在）

想定されるハザード

南海トラフ地震（理論上最大クラス）の場合

最大震度 7

津波浸水深2～5m

（一部5～10メートルの地点あり）

液状化についても極めて高いと想定されています。



（南海トラフ地震：理論上最大：震度分布図）

主な取り組みスケジュール

開催日時	会議名等	内 容
平成30年5月21日	代表者会議	地区津波避難計画に向けた説明
6月14日	全体会議	<ul style="list-style-type: none"> 松阪市津波避難対策基本方針の説明 ワークショップ（WS）の取り組みについて
7月18日	第1回WS	<ul style="list-style-type: none"> 防災講演会（三重大学大学院工学研究科 川口准教授） 地区防災計画策定にむけた進め方の説明
8月～12月	災害図上訓練	各地区において、津波避難を考えるWSを実施（14地区（組）を対象に12回実施）
9月23日	避難訓練	津波を想定した避難訓練 <ul style="list-style-type: none"> 西黒部小学校から朝見小学校まで徒歩避難 ※西黒部小学校児童と合同開催
12月 8日	避難訓練	高須町自治会避難訓練・防災講演
平成31年 3月17日	松阪市防災会議	地区防災計画提案：承認
令和 元年 5月20日	防災講座	住民向け防災講話（松名瀬町）
6月17日～	災害図上訓練	<ul style="list-style-type: none"> 災害図上訓練（松名瀬町） （7地区（組）を対象に4回実施）
8月20日	自治会長会議	避難行動要支援者名簿（西黒部分）の受け渡し及び活用について協議
9月29日	避難訓練	地区防災計画をもとに、それぞれの避難先へ徒歩避難実施

地区防災計画

～地震・津波編～



令和2年3月

はじめに

平成30年度に、『松阪市津波避難計画』が策定され、津波避難困難地域が指定されました。

また、同計画策定過程で道路幅を3m以上とする条件でのシミュレーションしたところ、避難可能距離としては十分であるものの、幅員3m未満の道路が多い地域では、避難困難であり、対象地域として、町平尾町、狛師町が抽出されました。これらの地域は津波避難困難地域ではなく、道路へ出ることが困難である地域であることから、「避難道路狭あい地域」として位置づけられました。

港地区では『地区防災計画』の作成を目的として、様々なワークショップなどを実施し、自助の重要性を再確認し、避難経路を考え、課題抽出などを行い、地区内の住民が全員無事に避難できるよう検討し、『港地区防災計画』を作成しました。

計画の範囲

計画の対象地区は松阪市のうち、「大塚町」「大平尾町」「久保田町」「新松ヶ島町」「船江町（船江町団地北）」「町平尾町」「狛師町」からなる港地区です。

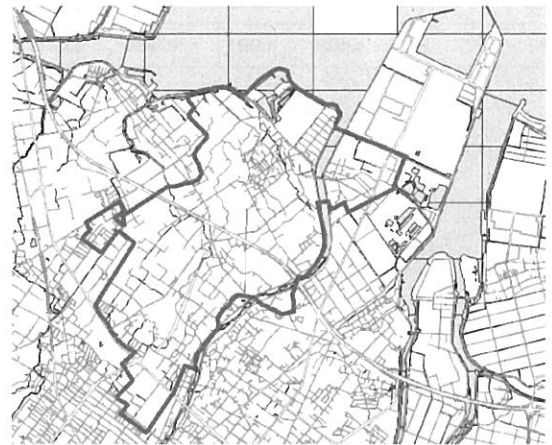


図 対象地区の範囲

目次

はじめに	1
計画の範囲	1
スローガン	2
活動目標	2
港地区の地理	2
港地区の人口	3
港地区の災害履歴	4
想定される災害	5
平時からの備え	6
発災時	7
港地区の津波避難経路と避難先	8
課題や問題点	12
今後の活動目標	13
本計画策定に向けての検討過程	14

改定履歴

令和2年3月

策定

スローガン



「み」 みんな 一緒に
「な」 仲良く 避難
「と」 共に 助かろう

活動目標

- ・港地区住民の防災意識の高揚
- ・避難路に面したブロック塀の撤去又は耐震化
- ・地震、津波の発生に備えた実行動の実施

港地区の地理

松阪市の沿岸部に位置し、北部は伊勢湾に面し、東部は2級河川の阪内川が流れ、地区内の中央に国道23号が東西に横断しています。

古くから漁業が盛んで、主要海産物は、あさり貝、あおさ、黒のりです。

港地区の人口 (令和2年1月1日現在)

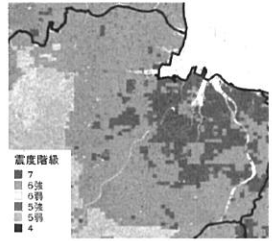
	人口	世帯数	年齢3区分別割合		
			年少 (0~14歳)	生産年齢 (15~64歳)	老年 (65歳以上)
大塚町	416	194	12.5%	67.3%	20.2%
大平尾町	295	140	10.8%	65.1%	24.1%
久保田町	464	198	13.4%	54.3%	32.3%
新松ヶ島町	810	320	9.5%	61.0%	29.5%
船江町 (船江町園地北)	162	83	11.7%	53.7%	34.6%
町平尾町	1,122	477	11.6%	54.9%	33.5%
獺師町	1,139	549	8.3%	57.2%	34.6%
合計	4,408	1,961	10.8%	57.4%	31.8%

想定される災害

南海トラフでは、過去100年から150年の間隔で巨大地震が発生しており、今後もその発生が予測されていることから、**南海トラフ地震を想定**します。

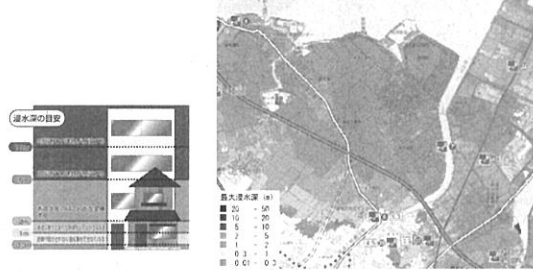
震度分布図

南海トラフの理論上最大クラスの震度分布図
港地区においては、震度6強~7の想定がされています。



津波浸水予測図

南海トラフの理論上最大クラスの地震を想定した場合にどの範囲まで浸水するかを、示した図です。
浸水の深さに応じて色分けしてあります。
港地区においては、**2~5mの最大浸水深**が想定されています。



港地区の災害履歴

昭和28年台風第13号(9月22日~26日)

9月18日にグアム島の南東海上で発生した台風第13号は、22日になって急速に発達し、非常に強い勢力を保ったまま北緯30度まで北上した。その後はやや衰えたが、25日17時に三重県志摩半島を横断し、伊勢湾を経て18時半頃愛知県知多半島に上陸した。21時には長野県諏訪市付近、26日00時に新潟市の東を通過、06時には三陸沖に進んだ。
四国から関東地方にかけての広い範囲で20~30m/sの最大風速を観測した。また、期間降水量は舞鶴(京都府舞鶴市)で507.0mmに達したほか、四国、近畿、東海、北陸地方で200mmを超え、愛知、三重、京都、滋賀、大阪、福井の各府県では甚大な被害が発生した。

昭和34年 伊勢湾台風(9月26日~27日)

9月21日にマリアナ諸島の東海上で発生した台風第15号は、中心気圧が1日に91hPa下がるなど猛烈に発達し、非常に広い暴風域を伴った。最盛期を過ぎた後もあまり衰えることなく北上し、26日18時頃和歌山県潮岬の西に上陸した。
上陸後6時間余りで本州を縦断、富山市の東から日本海に進み、北陸、東北地方の日本海沿いを北上し、東北地方北部を通過して太平洋側に出た。
旧松阪市内の被害状況(松阪市史より)
人的被害 死者3人、重傷者5人、軽症者21人
建物被害 全壊163戸、流出6戸、半壊283戸、
床上浸水769戸、床下浸水1,958戸

昭和57年 台風第10号と前線(8月1日~3日)

志摩半島の先端をかすめ、濃美半島西部に上陸。中部地方に大雨が降り、名松線の全線が土砂崩れのため不通となり、嬉野小原で民家4棟が土砂で押しつぶされた。そのあと南岸の前線と9号台風崩れの低気圧で再び大雨となり、南勢地方で住宅の浸水が相次ぎ、自衛隊の派遣要請をおこない、災害救助法も適用されました。
松阪市内の被害状況(松阪市地域防災計画より)
人的被害 死者19人、行方不明者2人、重傷者8人
建物被害 全壊38戸、半壊42戸、浸水3,965戸

津波浸水深30cm到達予測時間分布図

南海トラフの理論上最大クラスの地震を想定した場合に、避難行動を取れなくなる一つの目安とされている「浸水深30cm」に、どの場所がどのくらいの時間で達するかを、その時間に応じて色分けした図です。
港地区においては、**概ね40~60分**の想定がされていますが、一部地域は0~10分と想定されており、早期避難が求められます。



平時からの備え

- (自助)
- ・南海トラフ地震を知る
 - ・非常持ち出し袋の準備をする。
 - ・家具の固定をする。
 - ・地震に強い家にする。(住宅の耐震化)
 - ・地震に強いブロック塀にする。(ブロック塀の取り壊しをする。)
 - ・家族防災会議をして、避難先や連絡方法を話しておく。



- (共助)
- ・防災意識のさらなる高揚。(防災訓練や避難訓練の実施)
 - ・日頃からの近所付き合い。(顔の見える関係をつくりましょう)
 - ・安否確認の方法を確立し、訓練を実施。

奔災時

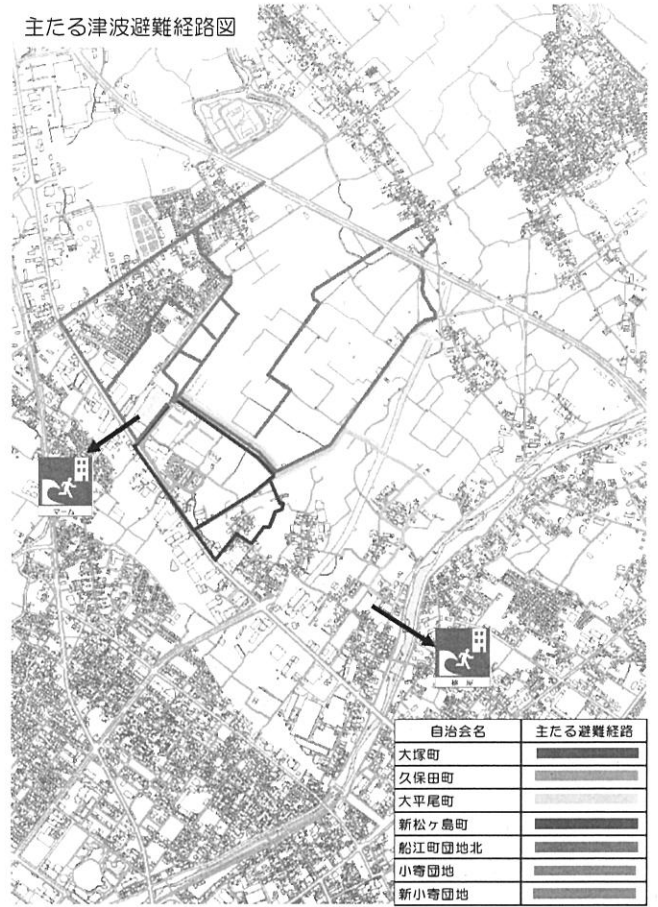
- (自助)
- ・先ずは、自分や家族の命を守る
 - ・火の始末をする。(できる限り初期消火をする。)
 - ・避難するときは、電気ブレーカーOFF
ガスの元栓OFF



- (共助)
- ・隣近所の安否確認(ケガした人がいたら救助や応急手当を実施)
 - ・隣近所に声をかけて一緒に避難(避難行動要支援者のサポートも実施)
 - ・避難先での情報発信



主たる津波避難経路図

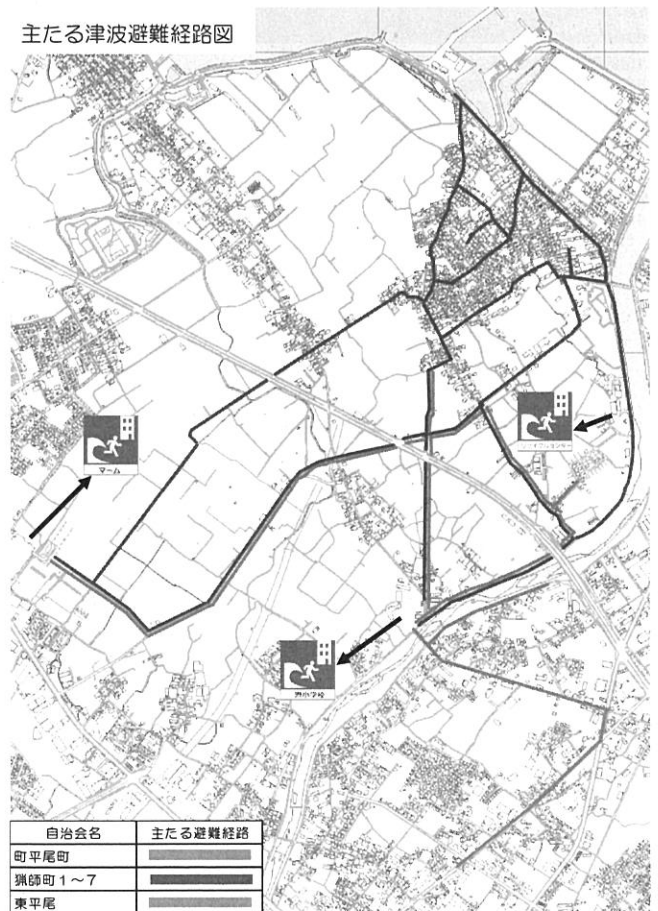


港地区の津波避難経路と避難先

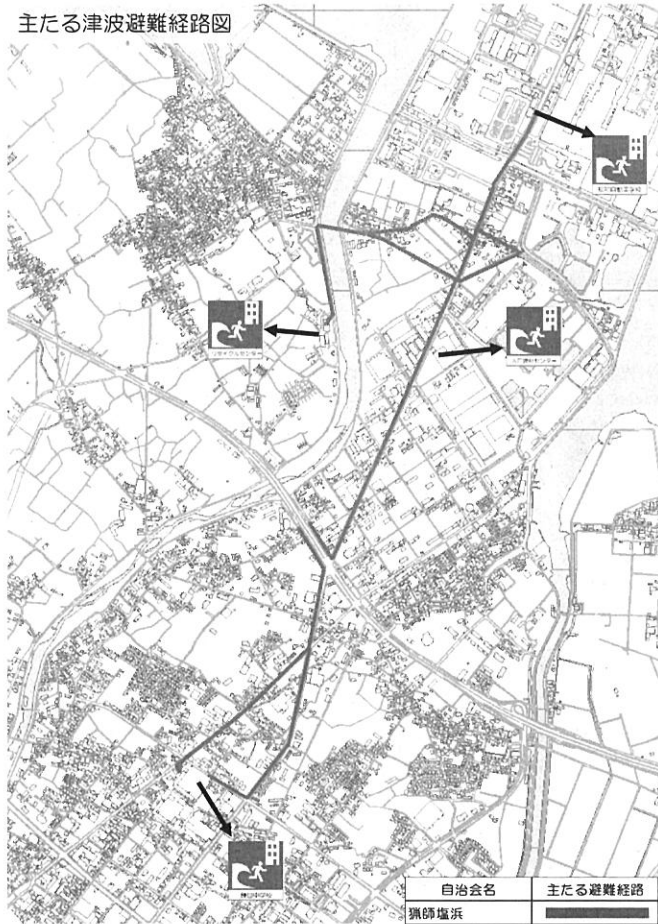
津波の避難は、『遠く高く』を基本とし、可能であれば津波浸水エリアの外へ避難する。
津波緊急一時避難場所は下表のとおりです。
また、主たる津波避難経路については、別添地図のとおりです。

自治会名	津波緊急一時避難場所
大塚町	松阪ショッピングセンターマーム
久保田町	株式会社 桃屋松阪工場 松阪ショッピングセンターマーム
大平尾町	松阪ショッピングセンターマーム 港小学校 鎌田中学校
新松ヶ島町	松阪ショッピングセンターマーム
町平尾町	松阪ショッピングセンターマーム
狹師町1	松阪ショッピングセンターマーム 松阪市リサイクルセンター
狹師町2	松阪ショッピングセンターマーム 松阪市リサイクルセンター
狹師町3	松阪ショッピングセンターマーム 松阪市リサイクルセンター
狹師町4	松阪ショッピングセンターマーム 松阪市リサイクルセンター
狹師町5	松阪ショッピングセンターマーム 松阪市リサイクルセンター
狹師町7	松阪ショッピングセンターマーム 松阪市リサイクルセンター
狹師塩浜	松和自動車学校 株式会社 大戸鋼材センター 松阪市リサイクルセンター 鎌田中学校
船江町団地北	松阪ショッピングセンターマーム
小寄団地	松阪ショッピングセンターマーム
新小寄団地	松阪ショッピングセンターマーム
東平尾	港小学校 松阪ショッピングセンターマーム

主たる津波避難経路図



主たる津波避難経路図



今後の活動目標

本計画の策定に向けワークショップを実施し、多くの住民が参加しながらたくさんの意見を出し合い、地震・津波について考えてきました。しかし、まだ港地区の全員に認知されたわけではありません。また、高齢者を連れた避難をどうするか？（避難行動要支援者への対応）といった課題も残されています。

●やるべきこと、できることを考える

【個人・各家庭】

- ①すぐできること→②少し頑張ればできること→③困難なこと

【地区・自治会】

- ①すぐできること→②少し頑張ればできること→③困難なこと

【行政（市役所・県・国）】

これからは、個人や家族、港地区がそれぞれできることに対して、優先順位を持って取り組みます。それでも困難なことは市に協力を求めます。

それぞれの立場で、「できない理由を考えるのではなく、今のプロセスでできること」を考え、積み上げていきます。

●継続的な活動のスタート（PDCA サイクル）

課題はまだあり、まちの状況は変化していきます。

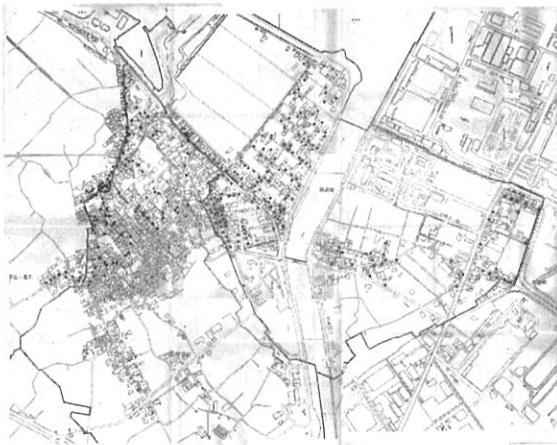
本計画策定を機に継続的な活動のスタートとして、PDCA サイクルをまわすことで、災害に強い港地区を目指します。

- Plan（計画）：避難計画をつくる。
- Do（実施・訓練）：避難訓練を行う。
- Check（検証）：訓練を行ってみて、うまくいきそうか？
- Action（見直し）：問題点・修正点はないか。



課題や問題点

- ・港地区住民の防災意識のさらなる高揚が必要
各家庭で、避難計画を作成（自助）
地区防災計画を周知する（自助・共助）
⇒まちづくり協議会で、防災講演会や防災訓練を行い防災意識の高揚に努めましょう。
小学校・幼稚園と連携した防災事業の拡充をしましょう。
- ・避難路沿いにあるブロック塀を取り壊し、避難路の確保（自助）
⇒自治会やまちづくり協議会で、危険ブロック塀の調査や周知を行い、ブロック塀取り壊しの啓発をしましょう。



（参考）獺師町ブロック調査地図（2018年7月調査）

- ・避難行動要支援者（高齢者や障がい者）の避難について考える（自助・共助）
⇒避難行動要支援者名簿などで対象者を把握し、日頃から顔の見える関係を作りましょう。
また、防災訓練や地区のイベントへの参加の呼びかけをしましょう。
- ・道路幅が狭いため拡幅が必要
- ・津波避難タワーが必要

本計画策定に向けての検討過程

日付	会議名など	議題など
令和元年5月9日	代表者会議	地区防災計画策定に向けた説明会
令和元年7月11日	全体会議	(1) 防災講演会 （三重大学院工研究科 川口准教授） (2) 地区防災計画について説明（防災対策課）
令和元年8月11日	代表者会議	(1) ワークショップの進め方について (2) 防災訓練について
令和元年8月～9月	ワークショップ	(8/26)小寄団地、新小寄団地、船江町団地北自治会 (9/6)獺師塩浜自治会 (9/25)獺師町1～7自治会 (9/26)大平尾町、新松ヶ島町自治会 (9/27)町平尾町自治会 (9/30)大塚町、久保田町自治会
令和元年9月13日	代表者会議	防災訓練について
令和元年10月27日	ワークショップ	防災訓練 （津波避難訓練、物資搬送訓練、傷病者搬送訓練）
令和元年12月9日	全体会議	防災訓練のふりかえり
令和元年12月16日	代表者会議	防災訓練のふりかえり（報告）
令和元年12月21日	ワークショップ	防災訓練（港小と合同で実施）
令和2年1月27日	代表者会議	地区防災計画（素案）協議
令和2年2月20日	全体会議	地区防災計画（素案）説明及び採択
令和2年3月17日	松阪市防災会議	地区防災計画提案



令和2年3月17日 松阪市防災会議提案説明